

ホンデュラス共和国 看護教育強化プロジェクト アフターケア調査団報告書

平成10年5月

国際協力事業団
医療協力部

JICA
613
929
MCM
BRARY

JICA LIBRARY

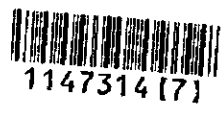
J 1147314 [7]

医協二
JR
98-21

ホンデュラス共和国
看護教育強化プロジェクト
アフターケア調査団報告書

平成10年 5月

国際協力事業団
医療協力部



1147314 [7]

序 文

ホンデュラス共和国看護教育強化プロジェクトは、1990年9月1日から5年間、看護教員に対する技術移転により、看護補助員および看護婦養成の強化を通じて同国の公衆衛生の改善に寄与するため、看護研修研究センターを中心に、看護補助員養成校3校および国立自治大学医学部看護学科3校を対象に看護教育技術の移転を実施したものです。

このたび、ホンデュラス共和国政府はプロジェクト終了後3年を経過したことから、看護研修研究センターで継続的に行われている活動と運営の評価、および今後の計画の策定、機材の保守およびスペアパーツの供与等による移転技術の再活性化を図るため、アフターケアによる技術協力を要請しました。

この要請を受けて、国際協力事業団は1998年4月25日から5月8日までの日程で、静岡県立大学看護学部の矢野正子学部長を団長として、アフターケア調査団を派遣しました。本報告書は、その調査結果を取りまとめたものです。

ここに本調査にご協力を賜りました関係各位に、深甚なる感謝の意を表しますとともに、本プロジェクトアフターケアの効果的な実施のために、今後共、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

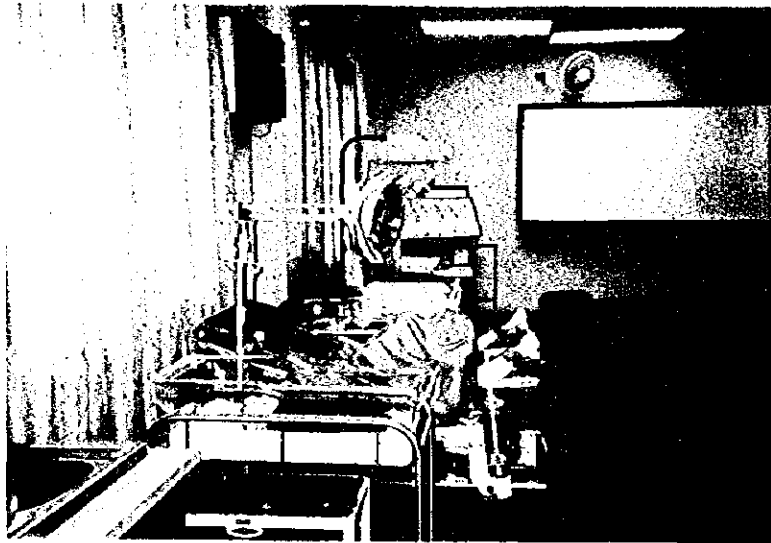
1998年5月

国際協力事業団

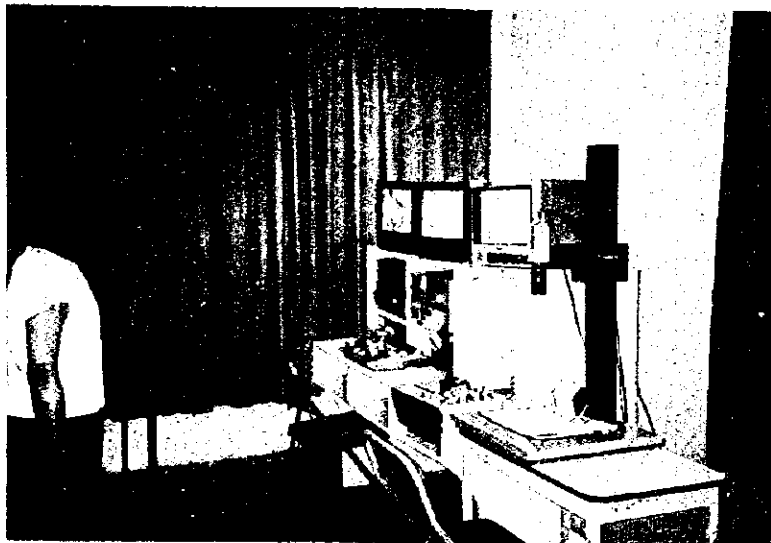
医療協力部長 福原毅文



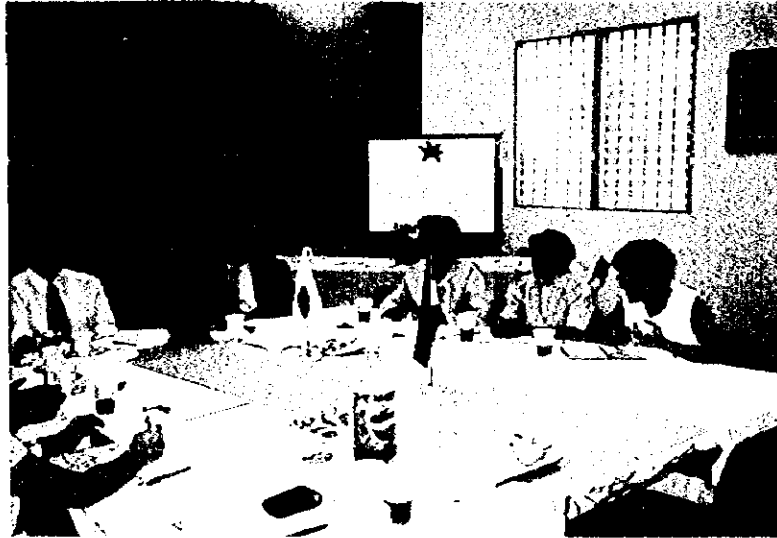
看護研修研究センターの外観



看護研修研究センターの教育用機材



看護研修研究センターの視聴覚機材



看護研修研究センターでの協議（厚生省、センター職員）



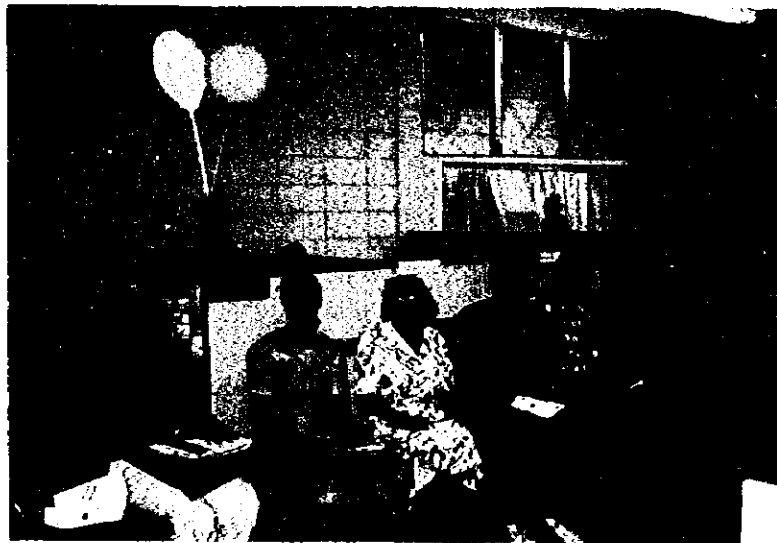
テグシガルバ看護補助員養成校の外観



テグシガルバ看護補助員養成校との協議



自治大学テゲシガルバ校との協議

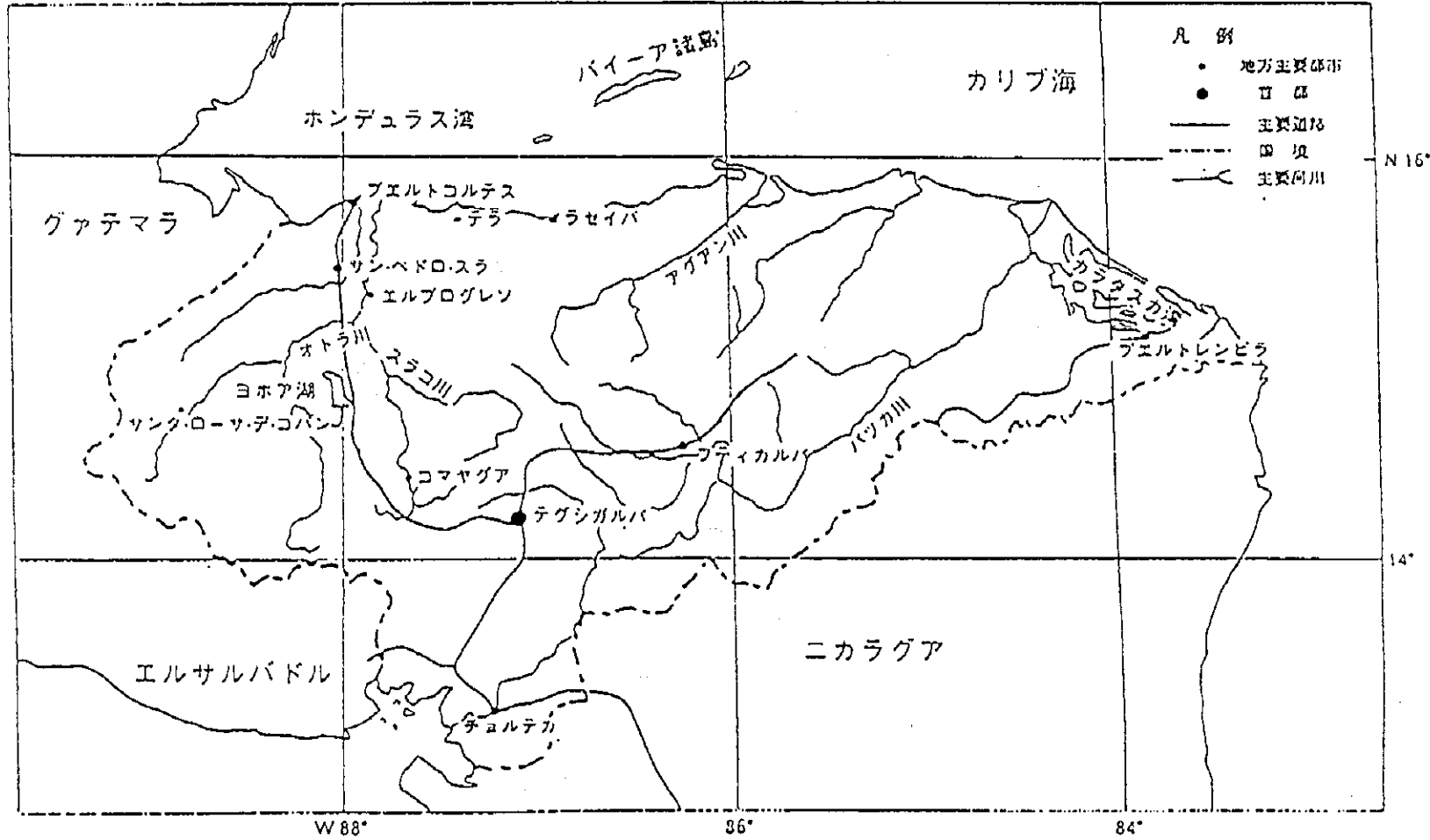


自治大学ラ・セイバ校との協議



ミニッツ署名

ホンデュラス国地図



目 次

序 文
写 真
地 図

1. アフターケア調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	3
2. 総括報告	4
2-1 協議の概要	4
2-2 アフターケア協力の内容	6
3. プロジェクトの成果と現状	7
3-1 看護研修研究センターの運営管理、活動の現状	7
3-2 プロジェクト対象校の運営管理、活動の現状	16
3-3 まとめ	20
4. 今後の課題と展望	21
4-1 看護教育技術の質の向上	21
4-2 看護教育	21
4-3 おわりに	21
附属資料	
① ミニッツ	25
② ホンデュラスの保健関連情報	30

1. アフターケア調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

1-1-1 調査団派遣の経緯

1995年の国連統計によれば、ホンデュラス共和国（以下、ホンデュラス）は人口600万人、1人当たりのGDPは660ドルの低所得国である。同国は、国民、とりわけ農村地域の住民に対する保健サービスの充実および乳児死亡率の低下を図ることを基本的保健政策として掲げている。しかし、農村地域では保健サービスの担い手である看護婦が絶対的に不足しており、またその技術水準も低いことから、住民の保健ニーズに十分対応できなかった。このため、同国は、厚生省管轄の看護補助員養成校（3校）および国立自治大学看護学部（3校）を対象としたプロジェクト方式技術協力を要請してきた。

これを受けてわが国は、1990年9月1日より5年間、看護教師の看護技術の向上を目的に本プロジェクトを実施した。プロジェクト期間中に、長期専門家10名、短期専門家15名が派遣され、274万ドル相当の機材供与、18名の研修員の受入れがなされた。さらに、プロジェクト基盤整備事業により看護研修研究センターが設置され、当センターを中心に各種セミナーの開催や各種教材の開発等により看護教育の向上に資した。

今般、本プロジェクト終了後約3年が経過し、上記センターで継続的に行われている活動と運営の評価、および今後の計画の策定、機材の保守およびスペアパーツの供与等による移転技術の再活性化を図るため、アフターケア協力をわが国に対し要請した。

1-1-2 調査団派遣の目的

今回の調査団において、プロジェクト終了後の活動進捗状況・課題を把握するとともに、先方と協力が必要と判断される分野・内容について協議を行い、活動方針を策定し、ミニッツを署名する。

1-2 調査団の構成

	氏名	担当	所属
団長	矢野 正子	総括	静岡県立大学看護学部学部長
団員	井手 信	看護教育	聖マリア学院短期大学副学長
団員	吉武 毅人	計画協力	国際協力事業団医療協力部医療協力第二課
団員	菅野 喜巳	通訳	日本国際協力センター研修管理員

1-3 調査日程

日順	月日	曜日	移動および業務
1	4/25	土	成田発 (AA026) (17:05) マイアミ着 (21:04)
2	26	日	マイアミ発 (AA953) (11:05) テグシガルバ着 (11:44)
3	27	月	AM: 大使館、JICA事務所表敬、看護研修研究センター視察・協議 PM: 厚生省、国際協力庁表敬
4	28	火	AM: テグシガルバ看護補助員養成校視察 PM: 自治大学テグシガルバ校視察、厚生省との協議、議事録作成
5	29	水	AM: ラ・セイバへ移動 PM: 自治大学ラ・セイバ校、ラ・セイバ看護補助員養成校視察
6	30	木	AM: テグシガルバへ移動 PM: 厚生省との協議、議事録作成・署名、大使館、JICA事務所報告
7	5/1	金	資料整理、団内打合せ
8	2	土	テグシガルバ発 (AA954) (13:12) マイアミ着 (17:41) (吉武・菅野団員) 資料整理、団内打合せ
9	3	日	マイアミ発 (AA027) (7:50) (吉武・菅野団員) フティカルバへ移動
10	4	月	成田着 (15:15) (吉武・菅野団員) AM: 第七保健区地域事務所、地区事務所、保健所視察・協議 PM: サン・フランシスコ病院視察・協議
11	5	火	(吉武・菅野団員) AM: テグシガルバへ移動、USAID表敬・協議 PM: 厚生省、PAHO表敬・協議
12	6	水	(吉武・菅野団員) テグシガルバ発 (TA954) (7:20) メキシコシティ着 (12:50)
13	7	木	(吉武・菅野団員) メキシコシティ発 (UA4420) (9:10) ロサンゼルス着 (11:00) ロサンゼルス発 (JL061) (13:00)
14	8	金	(吉武・菅野団員) 成田着 (16:15)

1-4 主要面談者

(1) ホンデュラス側

① 厚生省

Marco Antonio Rosa	大臣
Jose Manuel Matheu	次官
Jorge Medina	人材養成局長
Zulemo Aguilar	看護課長

② 国際協力庁

Moises Estarkman	大臣
Guadalupe Hung	局長

③ 看護研修研究センター

Liliana Mejia	センター長
Alba Luz de Mahoudeau	職員
Maria Isabel Aguilar	職員

④ プロジェクト対象校

Mayra Chang	テグシガルパ看護補助員養成校長 (CENARH)
Juana Carolina Buchanan	自治大学テグシガルパ校看護学科長 (UNAH)
Castanda Iveth	自治大学ラ・セイバ校看護学科長 (CURLA)
Norma M. de Carias	第6保健区看護婦
Virginia Velasquez	ラ・セイバ看護補助員養成校教員
Elvia M. Kelly	ラ・セイバ看護補助員養成校教員

(2) 日本側

① 在ホンデュラス日本大使館

三浦 春吉	参事官
-------	-----

② JICA ホンデュラス事務所

林 和範	所長
安藤 孝之	次長
山本 美香	職員

2. 総括報告

2-1 協議の概要

(1) 第1回目の協議

日 時：4月27日（月）午後1時

場 所：看護研修研究センター（以下センターとする）

出席者：調査団、センター職員（リリアナ・メヒア、アルバ・ルス・デ・マオウデ、マリア・イザベラ・アギラの3氏）、厚生省人材養成局長（ホルヘ・メディナ氏）

第1回目の会合では、まず調査団よりアフターケアについての説明を行った。すなわち、アフターケアは、プロジェクトの終了後約3年経過した時点において、プロジェクトで行われた事業の補充、付属品等の整備、機材の補充等のために行われるもので、具体的な内容としては、①短期専門家2～3名の派遣（1999年予定）、②カウンターパート（以下、C/P）研修員1名の派遣（1998年予定）、③供与機材（1998年発注、1999年配備予定）であるとした。ホンデュラス側は、すぐにこれを了解した。続いてホンデュラス側のアフターケア要請の詳細内容について説明を求めた。

① アフターケア対象校

1998年3月の朝倉正子単発専門家の調査報告によると、新たに看護補充員養成校がプロジェクト終了後は2校つくられ、それ以外に臨時校が4校となったと報告されており、ホンデュラスが考えているアフターケアの対象校を資したところ、新規2校を含む内容としたいということであった。新規2校は、ラ・セイバ看護補助員養成校、グラスアス看護補助員養成校である。リリアナ・メヒア氏の説明によれば、センターで行われる看護教員セミナーへの参加や既製テキストの配布などにおいて、新規校は従来の6校と同じに扱っているということであった。また、これら新規校の教員の数名は、既設校から配置換えであることも後日の調査でわかった。協議の結果、アフターケアの協力範囲は、新規の看護補助員養成校2校を含め、センター、プロジェクト対象校6校の合計9施設となった。このため、今回調査予定であったサンペドロスーラ看護補助員養成校の視察から、新規校のラ・セイバ看護補助員養成校に変更することとした。

② 日本人専門家の派遣

短期専門家の派遣については、その優先順位として第1番目は、ホンデュラス側で作成または作成中のテキストの内容への助言が必要であるということであった。具体的にこれから作成しなければならないテキストは、救急一般、感染症、環境衛生、看護管理などがあった。また、今まで作成したものについては新たに見直しが必要であるという

ことであり、特にその必要性の高いものとして母性保健の分野があるということであった。

第2番目に必要性の高いものは、カリキュラムの評価と教育方法の改善についてであった。これはプロジェクトの発足当初から重視されてきた課題で、カリキュラムが社会の要請に合っているか、また新しい教材の導入や教の整備、みずから教材作成をすることなどによって教育方法の改善を図ろうとするものであった。

第3番目は母子保健の強化であるが、その中でも母性に関する要望が強かった。妊娠に伴う疾患やそれへの対応と、すでに作成されたテキストの見直し・改訂などが含まれていた。

③ C/P研修員の受入れ

C/P研修員の研修範囲については、看護教育に関係するもので、看護教育に関する政策やカリキュラム改善・開発についてであった。

なお、供与機材については、ホンデュラス側でリストの作成が行われていたが、調整のために再協議が必要となった。

(2) 第2回目の協議

日 時：4月28日（火）午後3時

場 所：センター

出席者：調査団、厚生省（人材養成局長、看護課長）、センター長と職員2名、テグシガルパ看護補助員養成校（以下、CENARH）校長、国立自治大学看護学科（以下、UNAH）科長

この会議では主として機材について各校における供与された機材の使用状況や故障などの実状が報告され、センター所長によりとりまとめが行われた。

(3) 第3回目の協議

日 時：4月30日（木）午後2時30分

場 所：センター

出席者：調査団、厚生省（人材養成局長、看護課長）、センター長と職員2名、CENARH校長、UNAH科長

これに先立ち、4月29日（水）はホンデュラス側がアフターケアの対象として追加した2校のうちのひとつであるラ・セイバ看護補助員養成校を視察し、教育の現場、機材等の実状について学校教員および第6保健区の看護管理者と意見を交わした。

最終的な合意として、新たな看護補助員養成校2校については、同として看護婦確保の

必要性が依然として高く、厚生省の指導のもとに第6保健区で新たに看護補助員養成を始めたものとして、アフターケアの範囲に入れることとした。

このほかに、サンフェリペ病院や少数民族レンカ族を対象に臨時校が4校あるが、これらはあくまでも臨時校であり、教育については既存の看護補助員養成校の教員が担当するなどの状況であることから、除外された。

2-2 アフターケア協力の内容

4月30日（木）午後3時30分よりセンターにおいて厚生次官ホセ・マヌエル・マテウ氏と調査団団長によりミニッツ文書（英語版、西語版）の署名・交換が行われた。ミニッツに記載されたアフターケア協力の具体的内容は以下のとおりである。

(1) アフターケア協力期間

1998年4月30日より2000年3月31日までの間とする

(2) 短期専門家の派遣とその内容

- ① 既に作成されたテキストや未作成の分野のテキスト作成についての助言 1名
- ② 大学および看護補助員養成校において開発・実施されてきたカリキュラムの評価と教育方法の改善 1名
- ③ 母性保健に関する教育内容の強化（母子保健に関するテキストの見直し、改訂のための助言を含む） 1名

(3) C/P研修員の派遣

看護教育の分野で、看護教育の政策やカリキュラム開発、教育方法の改善などを含む

(4) 供与機材

テキスト作成に必要な製本機、人体解剖モデル、血圧計、コンピューターなど機材、スベアパーツ類（ミニッツ Annex-2 参照）

3. プロジェクトの成果と現状

終了後評価調査団時においてホンデュラス側は、プロジェクトにより得た成果をもとに、今後看護婦等人材の養成を維持発展させるとともに、看護教員等の資質の向上について努力することを表明した。今回の調査団において、プロジェクト終了後のホンデュラスにおける活動の継続性を確認するため、看護研修研究センターおよびプロジェクト対象校6校中3校を訪問した。

3-1 看護研修研究センターの運営管理、活動の現状

プロジェクト期間の活動拠点であった看護教育強化センターは、プロジェクト終了後に看護研修研究センターと名称変更された。現在もホンデュラスにおける看護教育センターとして人材開発（看護教員）の中心的役割を果たしている。

3-1-1 看護研修研究センターの運営管理

(1) 人員

センターの職員数は9名で、リアナ・メヒア氏（所長）、マリア・イザベラ・アギラ氏（セミナー担当、元社会保険病院勤務）、アルバルス・コジャルト氏（視聴覚担当、元カリキュラムC/P）、図書担当（資料および図書管理）、その他秘書等5名である。

また、プロジェクト時のC/Pの定着状況も良好である。

1) 職員数の推移

年度	91	92	93	94	95	96	97	98
人数	8	8	9	8	8	8	8	9

2) C/Pの配置状況（研修員のみ）

C/Pの配置状況は表-1による

表-1 C/Pの配置状況(研修員のみ)

年度	氏名	役職	専門分野	日本での研修期間	勤務期間	現在の勤務先
90	レナート・バレンスエラ	厚生省・プロジェクトディレクター	公衆衛生行政	91.03.25-91.04.14	(~92年)	退職
	リアア・メヒア	厚生省・プロジェクトコーディネーター	看護教育計画	91.07.15-91.08.08	15年	看護研修研究センター長
91	ミアン・チャン	CENARH校長	看護学校管理	91.07.15-91.12.14	(~93年)	退職
	ロサ・マリア・ベリオス	CENARH教員	母子看護	92.01.27-92.06.28	16年	CENARHコーディネーター
	イダニア・アルカンタラ	CERARH-SUR教員	母子看護	92.09.21-93.02.27	10年	CERARH-SUR教員
	セシリア・フロレス	CERARH-NORTE教員	カリキュラム	92.09.21-93.06.27	13年	CERARH-NORTE教員
92	イベ・カस्ताニェーダ	CURLA教員	公衆衛生	92.09.21-93.02.27	15年	CURLA教員
	ロサリオ・バジャダレス	UNAH教員	外科看護	92.09.21-93.06.27	12年	UNAH教員
	テサ・イダルゴ	CURN教員	成人看護	93.08.31-93.12.25	22年	CURN教員
	ルールドス・アマドール	UNAH教員	公衆衛生	93.08.31-93.12.25	4年	UNAH教員
93	ソニア・ブエソ	CERAR-NORTE校長	カリキュラム	93.08.31-93.11.06	17年	CERARH-NORTE校長
	アルブオンジーナ・モントヤ	UNAH教員	カリキュラム	94.08.30-94.12.17	15年	UNAH教員・看護研究 コーディネーター
94	アルバルス・コジヤルト	CENARHコーディネーター	カリキュラム	94.08.30-94.12.17	12年	看護研修研究センター
	リタ・マルティネス	CURN教員	看護研究	94.08.30-94.12.01	13年	CURN教員
	ホルヘ・メディーナ	厚生省・プロジェクトディレクター	公衆衛生行政	95.08.27-95.10.09	15年	厚生省人的資源局長
95	ジーン・リベラ	CURLA教員	公衆衛生	95.06.17-95.11.20	13年	CURLA教員
	マルタ・アリア・ブレイル	CURN教員	カリキュラム	95.08.27-95.11.20	13年	CURN教員
	マイラ・チャン	CENARH校長	看護学校管理	95.08.27-95.11.20	22年	CENARH校長
	テグシガルバ看護補助員養成校 (CENARH)、サンペドロスラ看護補助員養成校 (CERARH-NORTE)、チュルシカ看護補助員養成校 (CERARH-SUR)、自治大学テグシガルバ看護学科 (UNAH)、自治大学サンペドロスラ校看護学科 (CURN)、自治大学ラ・セイバ校看護学科 (CURLA)					

(2) 運営

現在は人材養成局の直轄にあり、保健省からの固定予算で運営されている。維持管理費として1997年より約2万ドルの予算が確保されている。またテキストの販売により収益を得ている。

1) 運営予算の推移 (単位：万レンピーラ)

年度	91	92	93	94	95	96	97	98
予算額	0	0	57	57	28	28	28	28

2) 運営予算の内訳 (単位：レンピーラ)

項目	97年	98年
人件費	103,800	103,800
出張日当	42,340	42,340
施設費	10,000	10,000
機材管理費	120,000	120,000
機材購入費	7,300	7,300
合計	283,440	283,440

(3) 施設および機材管理

プロジェクト活動当時よりもさらに教育研修センターとしての形態が整えられており、各種教育機材、備品にいたるまで保守管理は非常によい。また、プロジェクト期間中に供与された機材の保守管理も良好である。

1) スタッフルーム、セミナー室 (1階)

看護研修研究センターに隣接するテグシガルバ看護補助員養成校 (以下、CENARH) キャンパスが整備されたためか以前に比して室内のほこりも少なく、快適な環境である。

2) 視聴覚室 (2階)

ビデオカメラ、ビデオおよびビデオ編集機や、供与された、または教材として作成されたビデオテープ (内容については後述) 等よく管理されている。二重のカーテンにより日光が遮断され、室内の温度をなるべく低温に保つなどの努力がなされている。

3) 演習室 (2階)

機材管理の状況は非常によい。また機材の看護補助員養成校等に対する貸借管理も良好で、供与機材の管理は確実に実施されている。

4) 供与機材の利用状況 (100万円以上)

供与年度	機材名	供与場所	金額 (千円)	利用状況
1990	車両1台	厚生省	4,000	よく利用している
	車両2台	看護研修研究センター	4,000	よく利用している
	パソコン1台	看護研修研究センター	1,500	よく利用している
1991	ビデオ編集機材1台	看護研修研究センター	1,050	よく利用している
	マイクロバス1台	CENARH	1,900	よく利用している
	マイクロバス1台	CERARH-NORTE	1,900	故障は多いが、 修理しながら使用
	マイクロバス1台	CERARH-SUR	1,900	よく利用している
1992	人工呼吸器1台	看護研修研究センター	9,567	よく利用している
	心電図モニター1台	看護研修研究センター	4,293	よく利用している
	分娩台1台	看護研修研究センター	1,870	よく利用している
	分娩台1台	CERARH-NORTE	1,870	よく利用している
	分娩台1台	UNAH	1,870	よく利用している
	分娩台1台	CURN	1,870	よく利用している
	分娩台1台	CURLA	1,870	よく利用している
1993	新生児処置台1台	看護研修研究センター	1,564	よく利用している
	クーベス1台	看護研修研究センター	1,169	よく利用している
	印刷機1台	看護研修研究センター	1,217	よく利用している
	ビデオカメラ1台	看護研修研究センター	1,510	よく利用している
	ビデオ編集コントローラ1台	看護研修研究センター	1,332	よく利用している
1994	心電図3台	UNAH	2,676	よく利用している
	心電図3台	CURN	2,676	よく利用している
	心電図3台	CURLA	2,676	よく利用している
	コピーマシン1台	看護研修研究センター	1,659	よく利用している
	ビデオデッキ1台	看護研修研究センター	1,980	よく利用している

3-1-2 看護研修研究センターの活動

前述のごとく看護研修研究センターはホンデュラスにおける看護人材開発の中心的役割を果たしている。

活動内容は、

- ① 看護教員に対する定期的なセミナー開催
- ② 教材開発としてのテキスト・マニュアル作成およびVTR作成
- ③ 遠隔地でのセミナー開催等に対しての人材派遣
- ④ 特定領域における短期の看護教育への人材派遣
- ⑤ 機材・セミナー室等の貸与 (医師等も含む)

などである。

(1) セミナー等開催

3年間で合計27回開催され、延べ910人参加している。プロジェクト活動中のセミナー内容は主にカリキュラム・教育技法・教材作成に関するものであり、テキストの開発および作成にその成果がみられた。プロジェクト終了後のセミナーの内容はより統合的な看護の視点に立って実施されており、看護の質の向上に役立つものと思われる。

なお受講者への措置としては、プロジェクト終了後は全米保健機関（PAHO）の資金的援助を受け、参加者に旅費および宿泊費を払っている。ただし資金的援助が受けられないときは、参加者の自己負担となっている。

1) プロジェクト終了後のセミナー開催の概要

講師名	コース名	期間	受講者身分	受講者数
リリア・北ア アパラス・ゴジャム	総合看護	95.10	専門看護婦	11
同上	総合看護 (呼吸器疾患)	95.11	看護補助員	20
同上	総合看護	96.02	専門看護婦	14
同上	基礎看護	96.02	看護補助員	35
同上	教育プロジェクト計画	96.02	専門看護婦	11
同上	フォーラム健康村	96.05	看護補助員校学生	100
同上	総合看護 (身体不自由者)	96.06	看護補助員	4
同上	技術基準書作成	96.06	専門看護婦	9
同上	保健研究	96.09.05-06	大学教員	250
同上	母子保健	96.09	専門看護婦、厚生省職員、 看護教師、看護婦	107
同上	救急患者介護	96.11.11-15	大学教員	9
同上	病院における看護	96.11.26-29	看護補助員	40
同上	母子看護	97.02	専門看護婦	12
同上	社会奉仕評価	97.02	社会奉仕終了学生	29
同上	看護サービス向上	97.05	専門看護婦	20
同上	看護サービス向上	97.06	看護補助員	60
同上	家族の健康	97.07	各分野	29
同上	カリキュラム改善	97.11	各分野	80
同上	プロジェクトフォローアップ	98.03	看護教師	25
同上	性の人間的な取扱い	98.03	看護補助員	25

(2) 教材作成

プロジェクト終了後にもテキスト開発は順調に継続されている。内容にあわせて、各校が分担し完成された。また必要に応じ増刷、改訂が行われている。作成されたテキストは確実に各学生に配布されているのを確認することができた。また、種々マニュアルも開発が続けられている。

作成された教材は新設（後述）のラ・セイバおよびモスキテア看護補助員養成校さらに看護補助員特別養成コースにも配布されている。また医学生、NGOにも広く利用されている。中南米の他国より注文があるとのこと。

1) テキスト作成の概要

テキスト名	プロジェクト終了時	今回の調査時
国の現状	完成	再版
食糧保証	最終原稿	完成再版
母性看護	最終原稿	完成
社会参加	原稿70%完成	完成
成人看護	原稿40%完成	完成
小児看護	原稿作成開始	完成再版
正常分娩看護マニュアル*	—	完成再版
分娩時の精神保健看護*	--	完成再版
正常分娩マニュアル*	—	再版
視聴覚作成マニュアルの監修と再版*	--	作成中
家庭分娩看護*	—	完成
小児科入院患者の看護*	—	完成印刷中
成人看護*	--	完成
小児看護*	—	再版
母性看護マニュアル*	—	再版
社会参加*	--	再版

(*印はセンター担当) (表-2-1・2-2参照)

表-2-1 PRODUCCION DE TEXTOS

Al finalizar el Proyecto de Fortalecimiento de la Educación en Enfermería, se continuó con la producción de textos nacionales para la formación de Auxiliares de Enfermería.

En la etapa de seguimiento a través del Centro de Capacitación e Investigación de Enfermería se han producido con el apoyo técnico y financiero del centro los siguientes textos:

TITULO	NIVEL DE AVANCE	CENTRO QUE LO PRODUJO	CANTIDAD
• Participación social	Finalizo	Aldeas S.O.S.	2000
• Atención al Adulto	Finalizo	CERARH SUR	2000
• Atención al niño y a la niña.	Finalizo	CERARH SUR	2000
• Preparación del manual de atención al parto normal.		CERARH NORTE, CURN, Mario Catarino Rivas. CURN, IHSS	2000
• Atención psicoprofiláctico del parto.	Reimpresión	CERARH NORTE	2000
• Atención de la mujer.	Finalizo	CENARH	2000
• Lecturas complementarias de seguridad alimentaria.	Reimpresión	CENARH	2000
• Realidad nacional.	Reimpresión	CERARH NORTE	300
• Manual de atención integral al niño.	Reimpresión	CERARH	2000
• Manual del parto normal.	Reimpresión	C.C.I.E.	30
• Revisión y reimpresión del manual de producción audio visual.	En Proceso	C.C.I.E.	
• Atención integral del parto en el hogar.	Finalizo	C.C.I.E.	2000
• Atención del paciente pediátrico hospitalizado.	Finalizo	C.C.I.E.	En proceso de impresión
• Atención al adulto.	Finalizo	C.C.I.E.	2000
• Atención al niño y la niña.	Reimpresión	C.C.I.E.	2600

• Manual de atención a la mujer.	Reimpresión		2000
• Texto de participación social.	Reimpresión		2000
TOTAL			44,330.00

Estos textos se han distribuido a los diferentes Centros Estatales y de la UNAH, y al igual que los equipos desde su ingreso se convierten en propiedad de la Institución receptora.

Se espera elaborar los textos de técnicas de estudio, ecología y ambiente.

表- 2 -- 2 OTROS MANUALES ELABORADOS

1	XX Años de Cooperación Japonesa Se diagramó e Imprimió 200 Ejemplares
2	Análisis de Calidad del Sistema de Referencia y Contra Referencia de la Región de Salud #1 -- División de Hospitales. Se diagramó e Imprimió 40 Ejemplares
3	Análisis de Calidad del Sistema de Referencia y Contra Referencia de la Región de Salud #7 -- División de Hospitales. Se diagramó e Imprimió 50 Ejemplares
4	Participación Elaboración , Manual de Supervisión Capacitante..... En última revisión.

2) VTR作成：23本（表-3参照）

表-3 VIDEOS EDITADOS EN EL C.C.I.E.

1	Contigo Pueblo
2	Vamos al CENARH
3	Manejo de Material Estéril
4	Calzado de Guantes
5	Juventud S.O.S. una oportunidad mas
6	Promoción en Salud
7	Formación de auxiliares de enfermería en el marco de acceso olancho.
8	Parto en el hogar capacitación de parteras
9	Técnicas básicas sobre atención del parto
10	Hora de actuar
11	Quien eres tu
12	Un esfuerzo compartido
13	Mecánica corporal
14	Uso y manejo de la incubadora
15	Técnica básica de enfermería presión arterial
16	Técnica básica de enfermería inyección I.D.
17	Técnica básica de enfermería inyección Intramuscular
18	Técnica básica de enfermería inyección Intravenosa y sueroterapia.
19	Valoración de la embarazada
20	Por un futuro mejor
21	Agua de la vida
22	Nuevos enfoques de supervisión
23	Centro de Capacitación e Investigación de Enfermería.

3-2 プロジェクト対象校の運営管理、活動の現状

3-2-1 プロジェクト対象校の運営管理

(1) 人員

プロジェクト終了後もC/Pの移動はほとんどみられず、プロジェクト対象校6校ともにそれぞれの専門分野を強化し、プロジェクト活動が継続されていることを確認した。

CENARHはプロジェクト活動時の教室等の整備により、プロジェクト開始当初の二部授業は解消されたものの、その後の学生数の増加(105名)に伴い現在は二部授業がなされ、教員数も増員されている。また教員の内2名はサンフェリッペ病院の改築に伴う看護職の需要に応えるため、看護補助員特別要請コースを担当している。(表-4参照)

表-4 看護補助員養成校と自治大学教員のリスト

1995年のプロジェクト終了時評価のリストと比較している。*マークの人はプロジェクトの時期にいた人である。従ってマークのない人は退職等で移動があり、1995年9月以降に採用された人となる。

CCIE 看護教育強化センター	CERAH SUR
* Ms. MEJIA Liliانا (Director) * Ms. COLLART Alba Luz Ms. AGUILAR Maria Isabel	* Ms. ECHENIQUE Norma Yolanda (Director) * Ms. VIVIAS Ana Esther * Ms. GARCIA Maria Luisa * Ms. CASTILLO Marlen * Ms. MORADEL Norma Ondina * Ms. ALCANTARA Idania Maria
CENARH	UNAH
* Ms. CHANG Mayra (Director) * Ms. BERRIOS Rosa Maria (Coordinator) * Ms. PINEDA Dora Liceth * Ms. ARGENAL Rosa Haydee * Ms. BANEGAS Thelma Yadira * Ms. PALMA Ester Ms. FERRERA Alicia Ms. GEORGE Maria Ms. MONTOYA Josefa Ms. TURCIOS Claudia Ms. GUERRA Vilma Ms. VASQUZ Bety (1年の社会奉仕中) Ms. SUAZO Hilda (1年の社会奉仕中)	* Ms. BUCHANAN Juana Carolina * Ms. LEDEAMA Mirna * Ms. LOPEZ Elia Agustina * Ms. GROGAN Reina Lidylia * Ms. RODEZNO Maria Isabel * Ms. MEZA Lilia E. * Ms. AMADOR Maria de Lourdes * Ms. REYES Sofia * Ms. LOPEZ Enriqueta * Ms. MONTOYA Alfonsyna * Ms. PARCHMENT Chrystabel * Ms. ONDINA Maribel Salgado * Ms. OLGA Almendanez
CERARH NORTE	
* Ms. SERRANO Sonia (Director) * Ms. LABORIEL Dorotea * Ms. ARDON Paula Dolores * Ms. FLORES Rosa Cecilia * Ms. DURON Niomara * Ms. RUIZ Maria Victoria * Ms. LOBO Dilma	

CURN	CURLA
* Ms. MENDOZA Eda Nohemi (Director)	* Ms. LOPEZ Noemi
* Ms. AMAYA Martha Julia	* Ms. CASTANEDA Iveth
* Ms. BALTODANO Meiba	* Ms. RAMIREZ Duluce Maria
* Ms. LOPEZ Marta Elizabeth	* Ms. FIALLOS Noemi
* Ms. SUAZO Emelda Ruth	* Ms. BANEGAS Reyna Isabel
* Ms. ANDRADE Nidia	* Ms. LOPEZ Elia Ondina (Director)
* Ms. ESCOBAR Silvia	* Ms. ACOSTA Idalmy
* Ms. URRUTIA Norma Lastenia	* Ms. ESCOBAR Maria Teresa
* Ms. HIDALGO Tessa	* Ms. MONTOYA Rosa Linda
* Ms. MENDOZA Eda Nohemi	* Ms. RIVERA Jean O' Dell
* Ms. SANDERS Marta	* Ms. TORRES Gladys Esperanza
* Ms. VILLALOBOS Rita Maria	* Ms. RAMIREZ Odila
* Ms. VENTURA Zoila Ruth	* Ms. VILLAFRANCA Mirth
* Ms. POHL Erlinda	* Ms. HAYES Maria Teresa
* Ms. RODRIGUEZ Gladys	Ms. BETTY Nely Castro
Ms. SOLIS Rosa Digna	

(2) 運営

前述のごとく看護補助員養成校は学生数が増加している。(新設されたグラシアスおよびラ・セイバ地区の看護補助員養成校については後述)

自治大学では学生数が減少し、特にサンペドロスーラ校は大きな問題となっている。前年度の卒業生はおのおの10名に満たない。ラ・セイバ校のみかろうじて学生数が確保されている。学生の登録者数および志望者数の減少の理由は、①経済的、社会的理由により学費納入不能、②卒後の給与額が低い、③社会における看護職の地位が低い、④他に歩合のよい雇用ができた(特にサンペドロスーラへの工場進出)、などである。ただし大学職員の給与は一般看護職の4～5倍である。

1) 看護補助員養成校の活動予算の推移(単位: レンピーラ)

学校名	95年	96年	97年	98年
CENARH (テグンガルバ校)	12,000	12,000	12,000	113,440
CERARH-NORTE (Cholteca 校)	8,000	8,000	8,000	82,040
CERARH-SUR (サンペドロスーラ校)	8,000	8,000	8,000	92,090
CERARH-ATLANTID (ラ・セイバ校)				94,500
CERARH-GRACIAS (グラシアス校)				250,000
合計	28,000	28,000	28,000	632,070

2) 看護補助員養成校の活動予算(1998年、単位：レンピーラ)

項目	テグシ ガルバ校	チョルテカ 校	サンペドロ スーラ校	ラ・セイバ 校	グランアス 校	合計
人件費					157,200	157,200
設備費	57,000	45,600	55,650	75,000	35,500	269,400
機材費	56,440	36,440	36,440	18,850	57,300	205,470
合計	113,440	82,040	92,090	94,500	250,000	632,070

(3) 施設および機材の管理

機材管理の状況調査は年2回実施されており、管理状況はおおむね良好である。

CENARHは自助努力により、プロジェクト終了時よりさらに施設管理状況がよく、機材の管理状況もよい。CENARHにおける図書管理は、パソコン導入により飛躍的に向上している。蔵書・資料(2000冊)はすべて入力され、現在貸し出しのみに使用されているが、将来はレファレンスサービスも実施予定である。図書目録は他施設に毎月配布しており、隣接した国立胸部疾患病院の医師もよく利用している。

サンペドロスーラ看護補助員養成校(CENARH-NORTE)では視聴覚機材の盗難にあっても教員が弁償している。事故再発防止のため夜間警備員が配置されている。

自治大学サンペドロスーラ校(CURN)では車両の故障(交通事故のため)にて、修理のための予算の算出を行っている。

自治大学ラ・セイバ校(CURLA)は高温多湿の地域のため供与機材(特にゴム製またはシリコン製)の変色・変質およびカビの発生がみられる。その他の機材管理状況は非常によい。

3-2-2 プロジェクト対象校の活動状況

(1) 看護補助員校(主にCENARH)の活動

1) 教育技法の向上・教材の活用について

新カリキュラム展開に沿い、講義・演習・実習が行われている。作成された教材(テキスト・マニュアル・視聴覚教材)をもとにOHP等を使用して授業展開がなされ、教育技法の格段の向上がみられる。マネキン等供与機材は演習時に十分活用されている。しかしバイタルサイン測定のための血圧計・聴診器等は使用頻度が高くなり傷んでいる。

2) 教材作成技術

テキスト作成(母性看護・栄養改善・小児の総合看護マニュアル)を分担し完成。今後さらに教材・テキストの開発と内容の改善を行う予定。社会参加のテキストは厚生省

のカリキュラム変更に伴い改訂予定。視聴覚教材の作成技法に関してはまだ十分ではなく、看護研修研究センターで強化を図っている。

3) 調査研究等

保健所のプロジェクトと協力し、実習内容について1997年は69件実施した。

4) その他

少数民族（レンカ）に対するケアの特別コース、ならびに前述のサンフェリッペ病院看護補助員特別養成コースを担当した。

5) 看護補助員養成校の拡大

プロジェクト活動時3校であった看護補助員養成校は、保健政策に基づき2校が増設された。

① CENARH-GRACIAS（グラシアス）

学生数22名。教員1名、看護大学学生（社会奉仕）2名、秘書1名で対応している。自治大学の教員および厚生省人材養成局より協力体制がしかれている。教育環境はまだまったく整備されておらず、配電もなされていない状態である。（朝倉専門家調査より）

② CENARH-ATLANTICO（ラ・セイバ）

学生数70名。校長以下教員4名、秘書1名。現在地区病院附属施設の一部を借用している。現在の教育環境は非常に悪く、教室は一室のみで演習室はなく、非常に狭い教室にすし詰め状態で机が配置されている。室温は非常に高いが、扇風機等はなく換気も悪い。近日中に新校舎建設予定であり、土地はすでに確保済みである。教室前面に黒板が配置されているだけで教育機材はない。看護研修研究センターより教科書は配布されている。教育機材は補聴器・血圧計・産婦人科内診モデルのみで、演習用のベッドなどはない。

そのほかに、保健省管轄の臨時養成コースが4校存在しており、看護研修研究センターはセミナー開催やテキストの配布、教員の派遣等に協力している。

3-2-3 自治大学（主にUNAH）の活動

(1) カリキュラムの開発・作成

カリキュラム委員会で検討を重ね、学生もメンバーとして参加し開発した。看護研修研究センターと協力し、カリキュラムの改善をテーマにセミナーを開催した。

また社会奉仕に関しては、プロジェクト活動時に社会奉仕国内委員会、地区委員会が組織され、プロジェクトは社会奉仕実施規約の検討、印刷、発行を援助し、またオリエンテーションの実施や実習中および終了時の実施評価会の開催を援助したが、自治大学にお

いては社会奉仕の教育的意味づけはより確かなものとなっており、地域における調査研究、リーダーシップ論等地域看護学の実習期間として位置づけられている。さらに、社会奉仕の実習カリキュラムが変わり、内容が改善され、教育的な視点のもとに実習が展開されるようになり、学生のリーダーシップ養成・住民参加等種々の計画を盛り込み実践している。社会奉仕期間中、教員は学生の報告に対して助言を与える形式をとり、また実習中は社会奉仕委員会のメンバーのフォローアップを受けている。社会奉仕の中での病院実習は母子病院・サンフェリッペ病院を検討している。社会奉仕について看護補助員養成校にも改善の波及効果がみられ、教育的認識が高まってきている。

(2) 教材（テキスト・VTR）作成

看護協会・自治大学サンペドロスーラ校（CURN）と協力して開発している。（正常分娩の看護マニュアル等）

(3) 教員の調査研究

プロジェクト活動時、看護教育技術の改善のひとつとして自治大学を主に看護研究グループの核の形成がなされた。教員は保健省・地域代表者（看護教員、臨床看護婦、看護補助員、地域保健員を含む）とチームを組み、地域の調査研究を実施した。研究テーマは、下痢症・妊娠に関する問題などであり、中南米看護学会（98年9月看護研修研究センターで開催予定）で成果を発表予定している。

その他の研究テーマとしては、カリキュラム改革に対しての調査、看護補助員がどのようにして知識を深めていくか、新生児の死亡原因・母体死亡の解析などであり、全国レベルで発表し、資料は看護研修研究センターに保存している。

(4) その他

自治大学3校ともに、看護補助員教育に対する協力体制がしかれている。

3-3 まとめ

今回われわれは、プロジェクト終了後のホンデュラスにおける活動の継続性の確認とアフターケアの方針策定のためホンデュラスを訪問したが、調査の結果、各校ともにそれぞれの独自性を保ちながらも、センターを中心に一致協力して看護教員に対する技術の向上を図っていることを確認した。プロジェクト終了後のホンデュラス側の自立発展はめざましく、看護教育強化プロジェクトの技術移転の効果は、単にカリキュラム作成・教材作成等の技術の向上のみならず、看護教員および看護職の資質の向上とさらにはホンデュラスの公衆衛生の改善に大きく寄与している。

4. 今後の課題と展望

4-1 看護教育技術の質の向上

現在プロジェクトの技術協力により作成されたカリキュラムやテキスト、マニュアルの評価・改訂が行われている段階であるため、専門科目についての技術の向上はもちろんであるが、教育技術の質の向上を目指し、より統合的な視野をもつ看護教員が必要とされている。アフターケア協力に際し、有能な専門家の派遣が望まれる。

またホンデュラスの保健衛生の水準は、プロジェクト開始当初に比して、乳児死亡率や母体死亡率の低下などがみられ、地域保健サービスの向上がみられているが、農村地域の住民あるいは少数民族に対する保健サービスは引き続き強化されねばならない。看護教育においては、カリキュラムのなかにおける社会奉仕の位置づけが確立し、教育施設と病院・地域の関係の強化がなされている現在、地域保健サービスの担い手である看護婦の教育、特に地域母子保健看護学等の分野の強化が必要であろう。

4-2 看護教育

プロジェクト活動期間中に、教室や実習（演習）室の増設や整備が行われ、また教材、図書、OA機器などが配置されて、看護教育環境の整備充実がなされた。プロジェクト終了後もこれらの機材は十分に活用されており、また保守管理も比較的良好であったが、なかには機材の使用耐用頻度をはるかに超過しているもの、あるいは高温多湿の環境のため変質したものなどもみられている。対象校の管理予算はわずかで、機材の保守点検や、スペアパーツの補充にあてることは困難であるため、アフターケアの範囲内での供与が必要である。

4-3 おわりに

ホンデュラスで行われた看護教育強化プロジェクトは、プロジェクト終了後3年を経過した現時点においても、プロジェクトで実施されたすべての事業が着実に実行されていた。また、ホンデュラスの社会情勢の変化などによる多少の影響を受けつつも、看護婦人材の確保は重要な政策のひとつとされ、養成力の拡大が図られつつあった（厚生大臣、厚生次官の発言を含む）。ただし、最近、韓国などによる都市近辺への工場進出により、若い女性が現金収入のよい方へ流れる傾向があり、これらとの比較から看護婦の賃金が相対的に安いことが指摘されていたので、厚生大臣、厚生次官に対して、看護婦の給料を上げていただきたいと要望した。

看護研修研究センターは、看護婦の確保のために全国を相手にして、養成力の強化と看護教員の資質の向上のため、プロジェクトで獲得した技術を駆使しており、そのエネルギーな活動

には敬服するものがあった。特に、これはセンターの所長であるリリアナ・メヒア氏の努力と推進力、そして周囲の協力を負うところが大きい。

今後はアフターケア協力によって、さらに看護教育の強化充実が図られることから、今迄の経過から得た実績をもとに、さらに発展する方向へ関係者が努力・協力することが望まれる。そのためには、看護研修研究センターの予算の確保と、センター機能を保健医療分野の教育開発拠点のひとつとして位置づけ、そのモデル的な施設・機能を持つものとして広く国民、まずは、医療関係者の認識がさらに深まるように活動を強化していくことにあるだろう。そして、すでに、センターを中心とした教員による調査研究などから、乳児死亡率や妊産婦死亡率に改善がみられていることから、これらの結果を公表して、保健医療水準向上のための実績を積み重ねることである。

プロジェクト開始時（1990年）に比較して、学校の設備は充実し、学生はテキストを得て学ぶ知識も整理され、また、学生の側からみずから必要な教材（住民向け）を作るなど、波及効果を産んでいる。教育環境の整備も間断なく行われ、学生は喜んで学んでいる雰囲気があった。

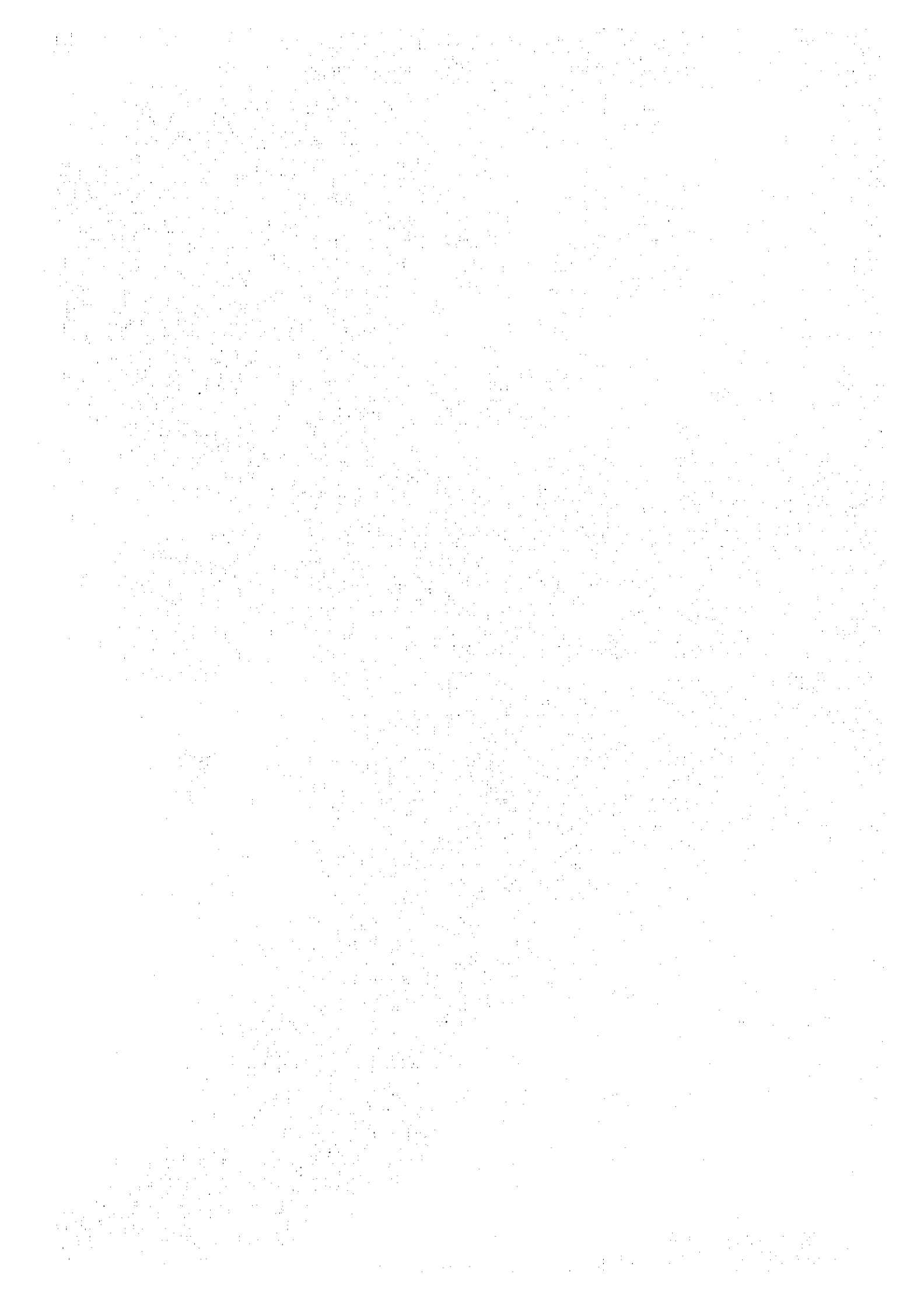
大学および養成校の教員は、プロジェクトによる成果をふまえて乳児死亡率や保健問題の調査を続けており、また、看護婦のおかれている社会的・経済的問題についても改善のため努力しているようである。

ホンデュラス側は、今後も引き続きプロジェクトによって引き継がれた技術と機材と、そして、日本人から植えつけられたとも思われる改革のためのスピリットを保持し続けるであろう。そういう意味で、プロジェクトの効果は十分に評価に値するものとみたので、今後、アフターケアにおいて、徐々に自立するための方策について協力・助言・指導を行い、さらに、成長に導くことが大切である。

日本との関係は、依存関係から自立関係に発展していくであろうし、今後も何らかの方法でホンデュラスへの精神的な支援を保つことが、プロジェクトの貴重な財産として残るのではないかと思われた。

附属資料

- ① ミニッツ
- ② ホンデュラスの保健関連情報





SECRETARIA DE ESTADO
EN EL DESPACHO DE SALUD
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

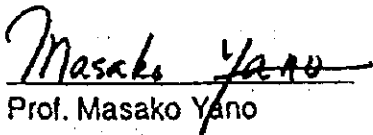
THE MINUTES OF DISCUSSION
BETWEEN THE JAPANESE AFTERCARE STUDY TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF HONDURAS
ON THE AFTERCARE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE PROJECT OF THE FORTIFICATION OF NURSING EDUCATION
IN THE REPUBLIC OF HONDURAS

The Japanese Aftercare Study Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Prof. Masako Yano, visited the Republic of Honduras from April 26 to May 6, 1998 for the purpose of working out the details of the aftercare cooperation program concerning the Project of the Fortification of Nursing Education (hereinafter referred to as "the Project").


During its stay in the Republic of Honduras, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Honduran authorities concerned in respect of the activities, functions and needs of the aftercare cooperation of the Project.

As a result of the discussions, the Team and the Honduran authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Tegucigalpa, April 30th, 1998


Prof. Masako Yano

Leader
Aftercare Study Team
Japan International Cooperation Agency
Japan


Dr. Jose Manuel Matheu
Vice Minister,
Ministry of Health,
The Republic of Honduras



M.Y.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL DESPACHO DE SALUD
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

ATTACHED DOCUMENT

The Team and the Honduran authorities evaluated the activities after the Project, and both sides agreed that the activities are developing successfully. With the increase of the number of nursing schools, both sides agreed to expand the activities under the aftercare cooperation program from the Nursing Training and Research Center and the six (6) Implementation Sites to nine (9) institutes of nursing education presented Annex-1.

1. Dispatch of Japanese Experts

Both sides agreed that there is a need of Japanese experts for more effective and productive implementation of the Project in the fields of nursing education:

- (1) To advise contents of text books
- (2) To evaluate curriculum and improve educational method
- (3) To fortify maternal health

The Japanese experts will be dispatched within the limit of the Japanese budget upon early submission of Form A1 by the Honduran side.

2. Participation of Honduran counterpart for training in Japan

One Honduran counterpart in the field of nursing education will be accepted in JICA's training program in Japan upon submission of A2A3 Forms by the Honduran side.

3. Provision of equipment

Equipment necessary for the aftercare cooperation program will be provided within the limit of budgetary allocation of the Government of Japan upon submission of Form A4 by the Honduran side according to the priority of the equipment list attached in the Annex-2.

Cost of customs clearance, internal transportation, installation, maintenance, agents and so on, should be borne by the Government of the Republic of Honduras.

m.y



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL DESPACHO DE SALUD
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

4. Duration of Cooperation

The above mentioned aftercare cooperation program will be two (2) Japanese fiscal year 1998 and 1999 (from April 30, 1998 to March 31, 2000).

Note: This document has been written in English and Spanish. In case of discrepancies in the interpretation of the document, the English version shall prevail.

M.Y



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL DESPACHO DE SALUD
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

Annex-1:

List of nine (9) institutes of nursing education

- (1) Nursing Training and Research Center
- (2) Auxiliary Nursing School in Tegucigalpa
- (3) Auxiliary Nursing School in Choluteca
- (4) Auxiliary Nursing School in San Pedro Sula
- (5) Auxiliary Nursing School in La Ceiba
- (6) Auxiliary Nursing School in Gracias
- (7) Nursing Education Department of the National Autonomy University in Tegucigalpa
- (8) Nursing Education Department of the National Autonomy University in San Pedro Sula
- (9) Nursing Education Department of the National Autonomy University in La Ceiba

M.Y.



SECRETARIA DE ESTADO
EN EL DESPACHO DE SALUD
REPUBLICA DE HONDURAS, CENTRO AMERICA

Annex-2:

List of equipment (No, Description, Quantity)

1	Human anatomical model	6
2	Simulator for first aid	5
3	Simulator of baby doll	7
4	Training model to insert DIU	12
5	Sphygmomanometer	25
6	Stethoscope	25
7	Weight scale for adult	10
8	Weight scale for child	10
9	Books	200
10	Handy Microphone	12
11	Microphone system	3
12	Over head projector	12
13	Video camera	2
14	Video set	3
15	Camera	4
16	Printing press	1
17	Mimeograph	6
18	Machine for bookbinding	1
19	Copy machine	3
20	Personnel Computer	4
21	Fax	4

List of spare parts (No, Description, Quantity)

1	Pregnancy model	2
2	Video editing machine	1
3	Over head projector	50
4	Slide projector	3
5	Camera (Flash gun)	1
6	Printing press for text	1
7	Copy machine	7
8	Personnel Computer (Memory)	2

M.Y.

[Signature]

② ホンデュラスの保健関連情報

保健指標
INDICADORES DE SALUD

	199	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
Esperanza de vida en años 平均寿命	61	66.32	66.7	67.1	67.6	68.00	68.42	
Esperanza de vida en hombres 男性寿命		64.02	64.4	64.8	65.2	65.6	66.01	
Esperanza de vida en mujeres 女性寿命		68.72	69.1	69.6	70.1	70.55	70.96	
Tasa de mortalidad Infantil por 100,000 Nac. vivos) 小児死亡率 (新規100人当り)			49.04	47.17	45.29	43.41	41.82	38
小児死亡率 Tasa de Mortalidad Infantil de niños		54.96	53.08	51.19	49.3	47.4	--	
小児死亡率 Tasa de mortalidad Infantil en niñas		46.65	44.99	42.94	41.08	39.21	--	
産婦死亡率 (新生児10人当り) Tasa de mortalidad materna por 100.000 N.V).		2.21	221	221	221	221	221	169
小児死亡率(1-4) (100人当り) Tasa de mortalidad de niños de 1-4 años por 100 N.V.)			22.42	22.42	22.42	22.42		
厚生省対象 人口比率 % de población cubierta por MSP					60		60	85
社会保険庁 未加入人口 % de población des cubierta por el IHSS.					11		22.7	
病院出生低体重 児比率 % de bajo peso de recién nacidos en Hosp.			10.4	11.6	10.1	9.8		
死亡率 (1000人当り) Tasa de mortalidad por(1000 hab.)	44	35.65						
乳児死亡率 (新生児10人当り) Tasa de mortalidad Infant. por 1000 N.V)	78.6	50.9						

人口指標

INDICADORES DEMOGRAFICOS
1992- 1996

INDICADORES	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
Población Estimada 推定人口	4,716,691	4,853,193	5,028,960.	5,173,100.	5,317,834	5,462,795	5,608,275
Extensión en Km2 面積	112,088	112,088	112,491.76	112,491.76	112,491.76	112,491.76	112,491.76
Densidad de habitantes por Km2. 人口密度	42.08	43	44.71	45.99	47.27	48.56	49.85
Tasa de crecimiento anual de la población (%) ** 人口增加率	3.1	2.9	2.9	2.9	3.3	2.6	2.75
Porcentaje de población de 1 año ** 1 歲人口比率	3.5	3.6	3.5	3.4	3.4	3.4	3.2
Porcentaje de población de 1-4 años. ** 1-4 歲人口比率	13.5	13.6	12.9	12.9	12.8	12.5	12.4
Porcentaje de población menor de 15 años ** 15 歲以下人口比率	45.5	46.5	44.5	44.2	43.7	43.3	42.8
Porcentaje de población de 15-49 años ** 15-49 歲人口比率	45	43.7	45.8	46.1	46.5	47.0	47.4
Porcentaje de población de 50-59 años ** 50-59 歲人口比率			4.7	4.6	4.7	4.7	4.7
Porcentaje de población de 60 y más ** 60 歲以上人口比率	9.4	9.8	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1
Porcentaje de población Urbana. 城市人口比率			42.0	44.0	44.0	44.0	45.11
Tasa de natalidad (nacidos vivos X 100 habitantes)			36.64	35.80	34.96	34.11	33.37
Tasa de mortalidad (muertes X 100 Hab.)			6.67	6.44	6.21	6.00	5.87
Tasa global de fecundidad 受胎率			5.03	4.87	4.71	4.55	4.40

出生率

死亡率

水質管理、環境プロモーション、組織化、研修における基本的保健活動

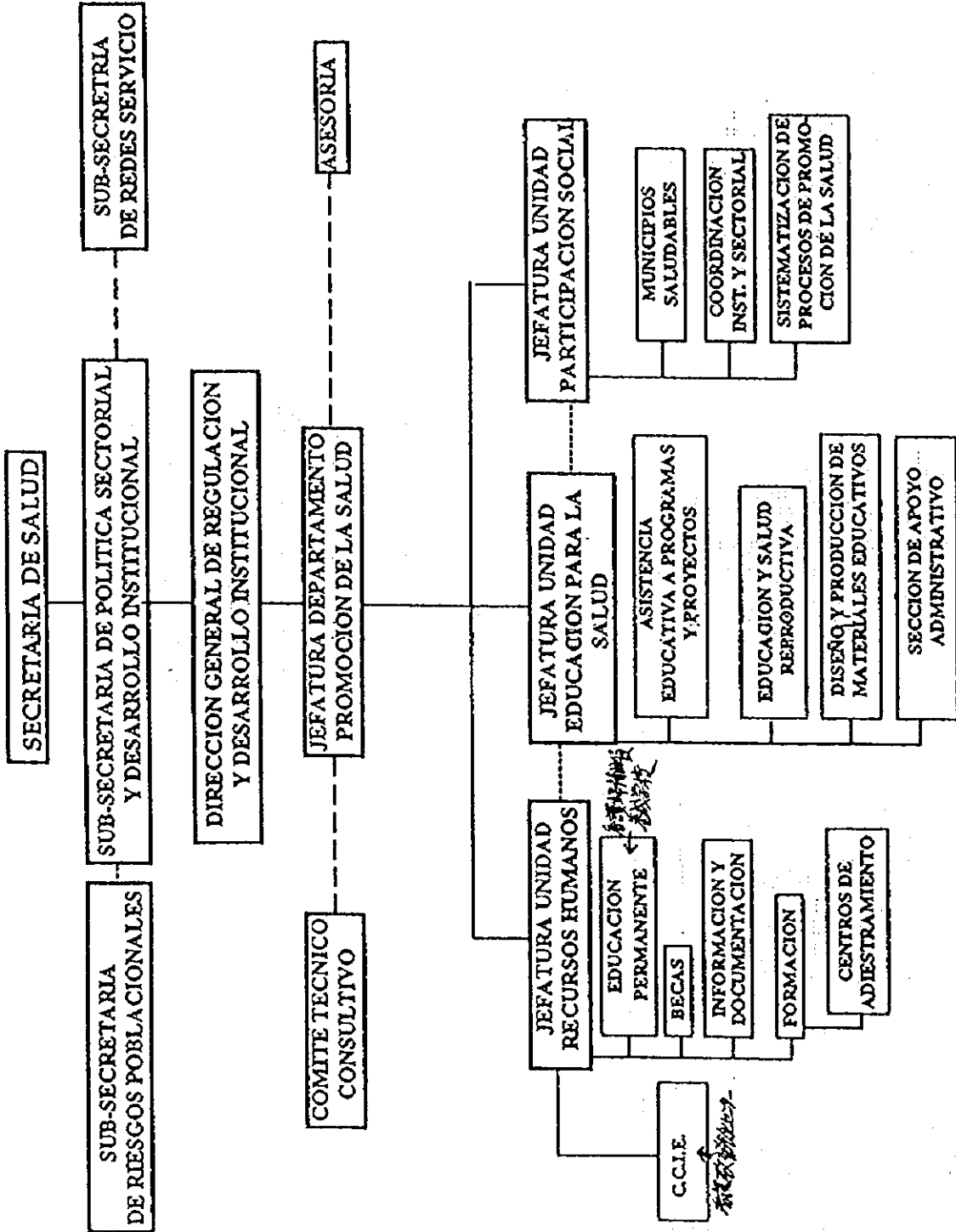
ACTIVIDADES DE SANEAMIENTO BASICO EN CONTROL DE CALIDAD DE AGUA, PROMOCION AMBIENTAL, ORGANIZACION, CAPACITACION DEL PAIS

ACTIVIDADES 活動内容	TOTAL AÑOS						
	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996
Toma de muestras de agua para análisis 水のサンプル採取			2,128	6,971	6,074	2,346	1,272
水のバクテリア分析 Análisis bacteriológico agua			2,610	2,084	2,509	1,608	4,064
水の臨床検査 Análisis clínico agua			3,561	4,225	3,347	4,106	4,603
飲料水 Agua para consumo humano			751	5,192	11,379	8,743	14,626
(バクテリアや化学的汚染なし) Sin contaminación bacteriológica y química							
役員レベルの シロ委員会 組織化 Organización de Comités de Silos a nivel de UPS.			169	236	202	368	227
シロ委員会への モニタリング Monitoreo a comité de SILOS.			1,090	1,459	1,419	2,566	1,553
シロ委員会への 研修 Capacitación a Comités de Silos			267	242	135	341	123
水道水委員会 への研修 Capacitación juntas de agua para acueductos			1,090	1,459	1,419	2,566	1,553
〃 Capacitación juntas de agua para acueductos			190	442	240	250	278
保健代議者の 研修 capacitación representantes de salud			264	507	645	427	473

ホンデュラス病院指標 (1990-1996)
INDICADORES HOSPITALARIOS
HONDURAS 1990 - 1996

CONCEPTO 項目	AÑOS (年)							
	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997
de camas 病床数	4,016	3,703	3,871	3,952	3,819	4,119	4,165	
de egresos 退院患者数	153,362	172,775	172,451	167,489	186,749	194,582	194,985	
as Estada 入院日数	966,239	1,042,062	961,031	951,906	976,334	1,023,308	1,024,888	
as camas disponibles 空きベッド日数	1,301,167	1,318,213	1,318,257	1,300,846	1,373,274	1,469,737	1,473,877	
medio días estada 平均入院日数	6.3	6	5.6	5.7	5.23	5.26	5.26	
ccentaje Ocupacional 占有率	74.3	79.1	72.9	73.2	71.1	69.63	69.54	
co de camas ?	38	47	45	42	48.9	47.24	46.82	
tervalo de sustitución. 入替間隔	2.2	1.6	2.1	2.1	2.13	2.29	2.30	
letalidad - 48 horas 死亡率 (-48時間)	1.1	1.2	0.8	0.8	0.86	0.9	1.01	
letalidad + 48 horas 死亡率 (+48時間)	1.6	2.1	1.3	1.4	1.4	1.34	1.46	
eraciones mayores menores 大小手術	57,688	62,323	60,499	52,864	58,314	55,773	60,821	
amenes de Laboratorio 臨床検査	1,200,060	2,768,701	288,701	1,295,051	1,257,093	2,346,412	2,399,954	
acas Radiológicas 放射線診断	214,293	279,419	273,018	253,637	154,810	274,245	292,216	
betas 処方箋数	2,529,002	3,078,626	248,023	2,603,471	2,529,982	2,505,138	3,301,104	
de partos 分娩数	48,482	54,964	58,061	60,205	59,248	61,633	76,641	
Normales 正常	48,482	54,964	58,061	60,205	59,248	61,633	64,544	
Cesareas 帝王切開	5,343	6,022	6,248	6,678	6,981	8,125	8,063	
Distócicos 難産							3,986	
ciones 給食	1,373,263	1,561,371	1,568,586	1,498,028	563,303	1,022,941	1,572,896	
A Pacientes 患者	885,671	1,038,365	1,036,111	977,521	563,303	506,248	1,004,271	
A Empleados 従業員	487,592	523,006	532,475	520,507		516,693	568,625	
de Atenciones 診療数	1,532,470	1,666,195	1,635,855	1,529,618		2,139,282	2,13,985	
Consulta Externa. 外来	1,160,169	1,193,189	1,140,302	1,325,657		1,604,877	1,860,437	
Emergencia. 救急	372,301	473,006	495,553	203,961		534,495	453,548	

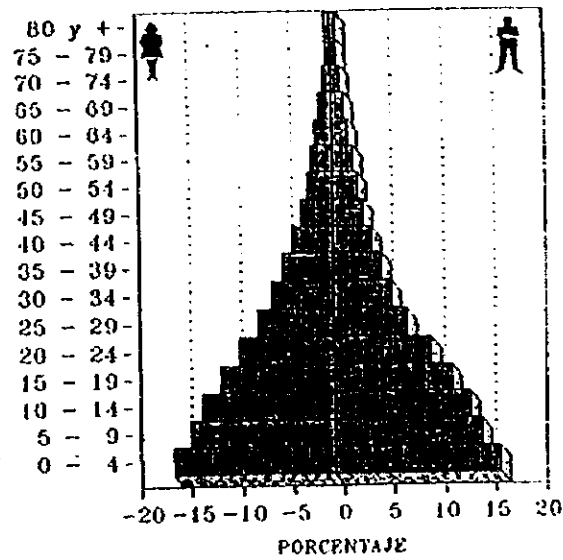
ORGANIGRAMA DEL DEPARTAMENTO DE PROMOCION DE LA SALUD



SECCIONES

年齢グループ別人口ピラミッド

PIRAMIDE POBLACIONAL POR GRUPOS DE EDAD HONDURAS 1996



■ MUJERES ■ HOMBRES

FUENTE: SECEPLAN

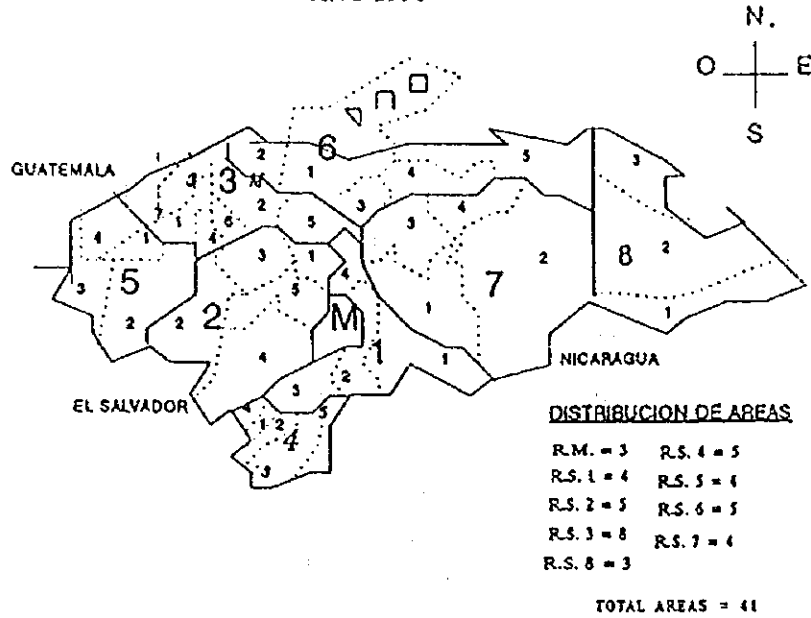
女性 男性

保健区分図

REPUBLICA DE HONDURAS

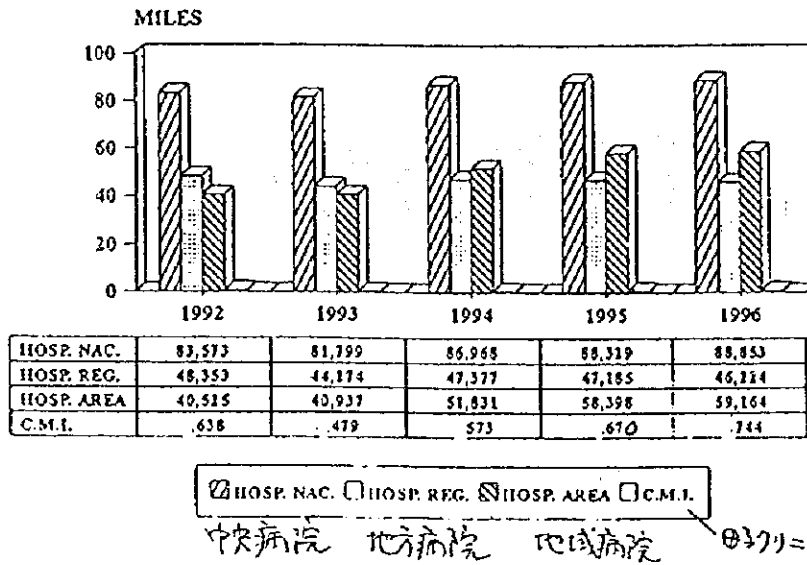
DIVISION REGIONAL DE SALUD

AÑO 1996

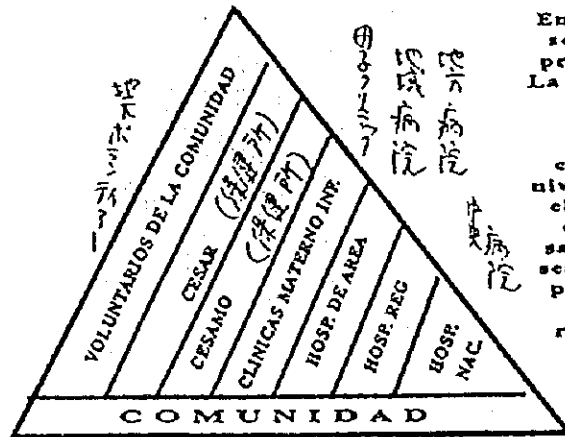


診療レベル別退院数

EGRESOS HOSPITALARIOS
SEGUN NIVEL DE ATENCION
HONDURAS, C. A. 1992 - 1996

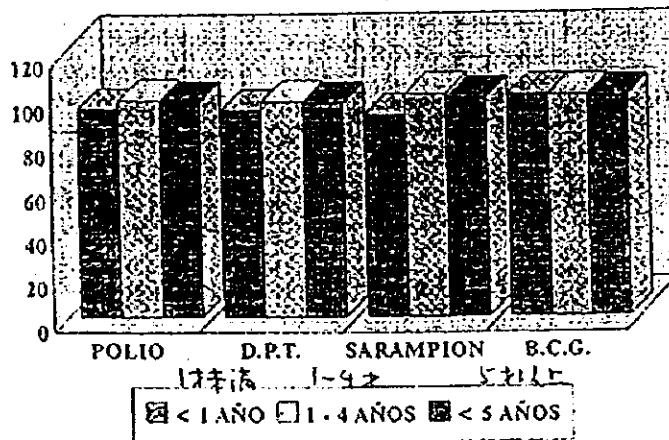


診療レベル
NIVELES DE ATENCION



En todos los niveles se desarrollan los programas básicos. La comunidad accede al Sistema de Prestación de Servicios por cualquiera de sus niveles donde le dara el tipo de atención que su estado de salud requiera bien sea con los recursos propios del nivel o mediante la referencia a otros niveles.

年齢別予防接種
COBERTURA DE VACUNACION
POR GRUPOS DE EDAD
HONDURAS, C.A. 1996



FUENTE: DEPTO. DE ESTADISTICA Y PAI

厚生省の医療施設

RECURSOS FISICOS DEL MINISTERIO DE SALUD
SEGUN AÑOS POR NIVEL DE ATENCION
HONDURAS, C.A. 1992 - 1996

NIVEL DE ATENCION	AÑOS				
	1992	1993	1994	1995	1996
CESAR	566	609	647	686	726
CESAMO	181	197	197	197	214
CLINICA MATERNO INF.	4	4	5	7	10
HOSPITAL DE AREA	14	15	15	16	16
HOSPITAL REGIONAL	6	7	7	6	6
HOSPITAL NACIONAL	7	7	7	6	6
TOTAL	778	839	878	918	978

保健所
保健所(区庁分署)

DOC: RECFIS.WK3

* A PARTIR DE 1995 EL BLOQUE MEDICO QUIRURGICO Y EL MATERNO
INFANTIL SE CONTABILIZAN COMO UNO SOLO

FUENTE: DEPTO. DE ESTADISTICA

保健区別各医療施設数

ESTABLECIMIENTOS DE SALUD SEGUN NIVEL DE ATENCION
POR REGION DE SALUD
HONDURAS C.A. 1995 - 1996

REGIONES DE SALUD	NIVEL DE ATENCION												TOTAL	
	CESAR		CESAMO		C.M.I.		C.R.A.		HOSP. REG.		HOSP. NAC.		1995	1996
	1995	1996	1995	1996	1995	1996	1995	1996	1995	1996	1995	1996		
METROPOL.	16	16	13	13	0	0	0	0	0	0	3	3	36	36
R.S. #1	97	100	23	22	1	2	1	1	0	0	0	0	122	125
R.S. #2	101	107	18	16	2	4	2	2	1	0	0	0	124	129
R.S. #3	95	104	48	51	0	0	4	4	1	1	1	1	149	161
R.S. #4	107	117	20	22	1	2	1	1	1	1	0	0	130	140
R.S. #5	97	108	30	30	0	0	2	2	1	1	0	0	130	141
R.S. #6	72	74	24	24	2	0	5	5	1	1	0	0	106	106
R.S. #7	79	83	13	19	1	2	0	0	1	1	0	0	96	105
R.S. #8	22	17	2	2	0	0	1	1	0	1	0	0	23	26
TOTAL	656	781	192	211	7	10	16	16	6	6	6	6	918	978

ANDR. CESARDO, M.S.P.

FUENTE: DEPTO. DE ESTADISTICA M.S.P.

勤務形態別各医療従事者数
RECURSOS HUMANOS INSTITUCIONALES POR CATEGORIA
HONDURAS C. A. 1996

CATEGORIA	PERMANENTE	CONTRATO	SERVICIO SOCIAL	TOTAL
医師 MEDICOS				
a. ESPECIALISTAS	663	39		702
b. GENERALES	394	196	215	805
正看護師 ENFERMERAS PROFESIONALES	589	59	54	702
準看護師 AUXILIAR DE ENFERMERIA	4,497	285	211	4,993
歯科 ODONTOLOGOS	82	8	37	127
707-7- その他 PROMOTORES	342	61		404
OTROS				5,067
TOTAL RECURSOS	6,567	649	517	12,800

DOC: RECUHUMA.WK3
FUENTE: CENSO DE ESTABLECIMIENTOS Y RECURSOS HUMANOS EN SALUD: MSP Y UNIS 1996

年齢グループ別診療件数
ATENCIONES POR GRUPOS DE EDAD
HONDURAS C.A. 1992 - 1996

REGION	TOTAL ATENCIONES	GRUPOS DE EDAD									
		0-1	%	1-4	%	5-14	%	15-49	%	50 Y MAS	%
1992	4,590,099	541,232	11.79	954,416	20.79	679,136	14.80	2,178,075	47.45	237,240	5.17
1993	4,539,192	558,384	12.30	971,420	21.40	646,470	14.24	2,075,229	45.72	287,689	6.34
1994	4,734,555	557,004	11.76	976,485	20.62	663,540	14.01	2,194,383	46.35	343,143	7.25
1995	4,826,874	580,363	12.02	1,023,798	21.21	661,720	13.71	2,118,609	43.89	442,390	9.17
1996	5,453,201	631,664	11.58	1,143,769	20.97	787,146	14.43	2,352,475	43.14	538,126	9.87

ARCHIVO: GRUPEDAD.WK3
FUENTE: DEPTO. DE ESTADISTICAS M.S.P.

各医療施設における提供医療件数

ATENCIÓNES BRINDADAS POR NIVEL
HONDURAS C.A. 1986-1996

AÑOS	NIVELES										TOTAL	
	HOSP. NAC.		HOSP. REG.		HOSP. AREA		CESAMO		CESAR		INSTITUCIONAL	COMUNITARIO
	No.	%	No.	%	No.	%	No.	%	No.	%		
1986	466,060	11.60	533,250	15.56	346,778	10.11	1,048,916	30.60	1,032,451	30.11	3,421,405	527,170
1987	475,890	10.41	662,319	14.48	983,499	21.51	1,188,517	25.99	1,262,834	27.61	4,573,009	552,512
1988	550,517	14.08	519,290	13.28	473,201	10.82	1,416,720	36.23	1,000,324	25.58	3,910,072	595,318
1989	513,928	12.54	531,814	13.19	470,280	10.42	1,460,626	36.21	1,102,686	27.34	4,033,434	579,367
1990	563,926	15.09	435,048	9.89	443,456	10.08	1,713,953	39.65	1,134,613	28.88	4,399,018	602,943
1991	721,447	18.00	448,919	9.33	495,829	10.21	1,907,087	39.64	1,237,571	31.72	4,810,453	638,255
1992	723,978	18.37	435,510	9.05	496,367	10.81	1,929,188	42.09	1,023,056	25.33	4,590,099	660,353
1993	637,218	14.04	400,647	8.83	491,753	10.83	1,202,608	29.71	1,206,965	30.59	4,539,192	628,477
1994	677,111	14.30	420,350	8.88	549,754	11.61	1,254,286	28.74	1,253,054	31.47	4,734,555	601,360
1995	604,356	12.59	470,165	9.80	594,481	12.29	1,800,202	37.51	1,329,464	31.70	4,798,668	397,655
1996	674,175	12.26	502,463	9.21	626,942	11.50	2,056,143	37.71	1,393,481	29.22	5,653,201	485,733

MICH. NYB. C. V. U.

FUENTE: ATENCIONES 1986 - 1996

NOTA: LAS ATENCIONES BRINDADAS POR LA CMI SON INCLUIDAS EN LOS CESAMOS

5才以下に対する予防接種実施割合

COBERTURA DE VACUNACION EN POBLACION MENOR DE 5 AÑOS
SEGUN TIPO DE VACUNA
HONDURAS C.A. 1992 - 1996

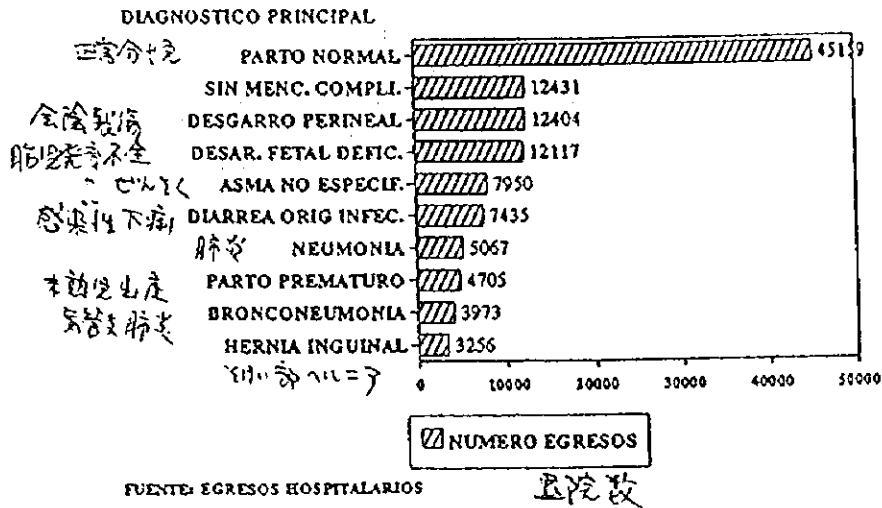
AÑOS	P.O.L.I.O.			D.P.T.			SARAMPION			B.C.G.		
	0-11 MESES	1-4 AÑOS	5 AÑOS	0-11 MESES	1-4 AÑOS	5 AÑOS	0-11 MESES	1-4 AÑOS	5 AÑOS	0-11 MESES	1-4 AÑOS	5 AÑOS
1992	95.2	89.6	86.4	90.7	84.3	86.3	92.7	99.0	97.7	92.7	87.0	88.2
1993	95.0	89.2	86.7	94.0	82.1	82.7	94.0	103.6	101.5	91.9	84.0	84.9
1994	95.0	95.0	95.1	96.0	93.0	94.0	94.0	99.0	98.0	99.0	95.0	96.0
1995	94.3	86.8	86.3	94.3	86.1	85.8	88.6	98.1	96.1	103.9	99.8	100.9
1996	94.2	88.2	87.3	93.5	87.3	86.5	91.2	100.7	98.7	100.1	99.7	98.8

MICH. COB. P. U. U.

FUENTE: DEPTO DE ESTADISTICAS / IAL - MSP.

国立病院における退院主要理由 (1996)

PRIMERAS CAUSAS DE EGRESOS HOSPITALARIOS
SEGUN DIAGNOSTICO PRINCIPAL
HOSPITALES NACIONALES, HONDURAS, 1996



JICA